

..... 編集後記 .....

◆ 横浜国大名誉教授の太田陽子先生から、台湾地震(9.21集集大地震)の地震断層に関する緊急調査第1報をいただきました。波打つ道路、折り畳まれたかのような橋、グラビア写真や本文中の写真のすさまじさに圧倒されてしまいます。阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)のときにも感じたことですが、地球科学に携わる人はこのような地質災害が起こったときには、現地へ行って被害状況を自分の目で確かめ、実感すべきだと思いました。これは、想像力を磨くために是非とも必要なことです。太田先生には現在、地質調査所非常勤職員として活断層研究のプロジェクトにご協力いただいております。

◆ 本号ではこのほか、工技院特研「活断層による地震発生ポテンシャル評価の研究」グループによる平成10年度の研究成果の概要報告および、当所OB服部 仁さんによる連載シリーズ「淡路島北部における兵庫県南部地震による地変と地震被害」の最終章をお届けしております。全体としては地震特集の感が無きにしもあらずですが、トルコ、ギリシャ、台湾と続いた地震同様、期せずしてそのようになりました。

◆ 特集「日本周辺海域の地質構造マッピング」の最終回として、徳山英一さんほかによる伊豆・小笠原弧、木村政昭さんほかによる琉球弧の構造発達史の原稿を掲載させていただきました。前号のオホーツク海、三陸沖等の海域もそうですが、本号で扱われている海域も、私にとりましては白嶺丸で訪れた

懐かしい海です。初めて小笠原諸島海域に行ったときは、東大海洋研究所の大学院生であった徳山さんも一緒でした。琉球大学の木村先生も当時は地質調査所におられ、私の所属する研究室の室長さんとして、乗船されました。木村先生はその後、琉球大学に移られ、時々テレビなどにも顔をお出しになって、幅広い話題を提供されておられます。

◆ 産学官連携推進センターの仕事のひとつに、成果普及ということがあります。研究発表会、研究講演会、そして地質ニュースの編集、それらは地質調査所の研究成果の普及、広報ということで、産学官連携推進センターが取り組んでいます。満足したばかりなので、センターの仕事の説明などをあちこちへの手紙の中に書いていますが、ワープロの変換間違いでいきなり「生家腐朽」という4文字が出たときには驚きました。「不朽」ならまだしも「腐朽」とは、ワープロもいたずらが過ぎます。

◆ 9月15日～10月11日、名古屋市科学館を会場に中部地質情報展を開催。10月15、16日'99北陸技術交流テクノフェア(福井県)、10月27日～29日国際新技術フェア'99(東京ビッグサイト)、11月17日～19日サイエンスフロンティアつくば999(つくば市)と、秋のイベントに立て続けに参加し、季節感を感じる暇もないままに秋が深まってきてしまいました。これらの展示会への展示も、研究者の方々と協力して産学官連携推進センターが行う成果普及の仕事となっています。

(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星任英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建  
佐藤興平・大熊茂雄・石塚 治・木下泰正・  
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係(河村幸男・渡辺光次)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3569

(2000年1月24日から市内局番が61に変わります)

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第543号	1999年	11月号
	定価¥785(本体価格¥748) ㊦実費		
1999年11月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 ㊦102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 1999 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。